

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年6月22日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.23】

## 内ゲバ犯が銃撃 逮捕されても権力の謀略なの？

東労組水戸地本・湯原組織部長への内ゲバ事件（1991年5月1日）では、中核派非公然活動家が逮捕された。「絶対に逮捕されることのない何者かによる犯行」とするJR総連や革マル派にとっては困った事態だろうが、彼らは、この逮捕をも「権力の謀略」と牽強附会している。松崎氏が会長を務める国際労働総研発行「われらのインター」(Vol.10)には、内ゲバ事件に関する松崎氏と四茂野氏(JR総連前副委員長)との興味深いやりとりがある。

(四茂野) 直接の波及はやっぱり小谷教宣部長襲撃でした。80年のそれが最初で、それからJRになってからかなり集中的な襲撃事件が起きるのです。われわれ「松崎組」としては、ただやられるばかり、やられたことを口実にしながらホラ、革マルだろ、ホラ、内ゲバの当事者だろ、だからこんな組合駄目なんだということをやらずとやられてくるわけですよ。(松崎) 全部やられっぱなしなのですよ。(四茂野) 「松崎組」の反撃は、ただ世の中に不当だと言うだけ。そんなの誰も取り上げないから、事態は不可思議なのが多いです。警官がパトカーで家の前に停まっている、その目の前で家に突入しているのですから。(松崎) その後で警官がピストルを発射しているのだからね。(四茂野) しかもそれがメーデーの日の朝ですよ。メーデーの日の朝に労働者を襲撃するのは左翼ですかということなのです。(松崎) 私らは権力の謀略だと思っていますから、それを俺がやったなんていつまで言うのも止めてくださいよ。(後略)

四茂野氏は、2008年7月24日の証人尋問で「様々な公安当局の関与があったと、直接間接の関与があった可能性は非常に高いというように思っている」と証言したが(No.19参照)上記の記事を見ると、警察の仕業と言いたげな特異な考え方が何となくわかってくる。

### 革マル派は「JR総連の組合分裂をバックアップする警察の犯行」と主張！

また、前掲「内ゲバにみる警備公安警察の犯罪(下)」にある内ゲバに関する「座談会」(p.472)によれば、革マル派は、湯原氏の事件について、「JR総連の組合分裂をバックアップするために企んだ警察の犯行だ」と考えているようだ。内容は論評のしようもないが、見れば見るほど、「JR総連と革マル派の常識離れの主張は実にそっくりである。

T - (前略) 県警は、この男片山を「非公然の中核派地下軍活動家」という具合におしだし、「内ゲバ」の証拠グッズでもあるかのように宣伝したのだが、片山武夫というこの男は、杉並区共同購入センターに居住する公然部門の専従八百屋であって地下軍ではない。そもそも天涯孤独な境遇にある片山は、ここで生け贄として射殺され消される予定だったのではないのか。実際の襲撃犯人は誰一人として逮捕されていないばかりか、ワゴン車も完全に闇に消えてしまった。警察がグルになって湯原氏襲撃を強行したことはあまりにも明白だ。A なぜ何のためにこの謀略襲撃が企まれたんですか。G この年の2月19日に、JR西労組・大松委員長は突如として「JR総連との断絶」を打ち上げた。アメリカ主導の多国籍軍のイラクへの軍事攻撃に抗議する運動をJR総連がつくいだしたその矢先に、大松はJR総連からの脱退と、鉄産労と連合してのJR連合結成、というかねてからの計画を、実行に移した。このJR総連の組合分裂をバックアップするために、この組織的混乱のまっただ中で、「内ゲバ」を装っての湯原氏の襲撃が演出されたに違いない。